

令和4年度第1回 独立行政法人農業者年金基金資金運用委員会 議事概要

1. 開催日時

令和4年6月13日（月） 13：30～14：40

2. 開催場所

独立行政法人農業者年金基金 特別会議室

3. 出席委員

・明田 雅昭 委員長 ・菅原 晴樹 委員 ・徳島 勝幸 委員 ・枇杷 高志 委員

4. 議事

- (1) 被保険者ポートフォリオの政策アセットミクスの変更について（報告）
- (2) 令和3年度運用結果について（報告）
- (3) 令和3年度運用業務等の評価について
- (4) 政策アセットミクスの検証について
- (5) その他

5. 概要

- (1) 被保険者ポートフォリオの政策アセットミクスの変更について（報告）

令和3年度第2回資金運用委員会において了承された被保険者ポートフォリオの政策アセットミクスの変更に係るオペレーションの状況について、事務局から報告を行った。

- (2) 令和3年度運用結果（報告）及び令和3年度運用業務等の評価について

令和3年度通期における各ポートフォリオの運用結果を報告の上、各ポートフォリオがベンチマーク並みの収益率をあげており、運用受託機関等の業務執行等においても問題がないことを事務局から説明し、了承された。

- (3) 政策アセットミクスの検証について

最新の金融経済情勢を踏まえ、新たな政策アセットミクスにおける運用の効率性の検証を行い、現行の政策アセットミクスは効率的フロンティアの近傍に位置しており、効率性は維持されていることを確認した。

ただし、インフレ圧力の高まりなどにより金融経済見通しの不確実性が高まっていることに加えて、効率的フロンティアの導出に係る制約によっては乖離する可能

性がある点についても確認した。

〔委員からの主な意見等〕

- ① 足元の金融経済環境については、前回の金融経済シナリオと比べて大きく変わっているようにも思われるが、基金はあくまでも中長期的な観点で運用していることを踏まえれば、政策アセットミクスを再度変える必要があるほどの変化ではないと考える。
- ② 国内債券におけるバーベル型運用については、キャリーロールダウン効果が得られているものの、金利が大きく変動した場合は収益率が野村 BPI 総合に比べてマイナスに振れた令和3年度運用実績も踏まえ、バーベル型運用の継続可否について検討する必要があると考える。
- ③ 今般の政策アセットミクスの変更に伴い、為替ヘッジ有り外国債券の保有割合を20%に引き上げたところであるが、今後の政策アセットミクスの検討においては、乖離許容幅についても議論してはどうか。
- ④ 現在の政策アセットミクスにおいては、国内株式と外国株式を12%ずつ保有しているが、今回の検証の前提の下で効率性だけでみれば、国内株式の保有割合を引き下げることが合理的といえるとも考えられる。今後の中長期的な検討課題として、これらの保有割合について検討してはどうか。

(以上)